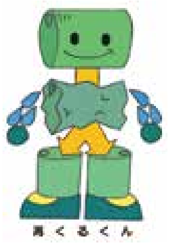

分別はごみを減らす第一歩
ごみ箱に入れる前にもう一度確認を

資源物としてリサイクルできる紙類や、金属類などの燃えないものを可燃ごみとして出していませんか。市では、家庭から出るごみを、可燃ごみ、不燃ごみ・有害ごみ、粗大ごみ、資源物に分けて収集しています。ごみを出す前に正しく分別できているか、もう一度確認しましょう。

分別収集はごみ処理の要です

ごみは、種類ごとに処理の方法が違います。可燃ごみは清掃センターの焼却炉で処理します。可燃ごみに不燃ごみや金属類が混ざっていると、炉が停止してしまうこともあります。

資源物の缶・金属類、びん、ペットボトルは、選別した後に圧縮などしてリサイクルしています。

資源物に異物が混ざっていると機械の故障につながることから、手作業で取り除かなければならないなど、不必要な手間がかかります。

紙類と生ごみ類は、可燃ごみの43.7％を占めています。紙類の中には、資源物としてリサイクルできるものもあります。ごみ袋を入れる前に、資源物として再利用できる紙がないか、もう一度確認してみてください。

ごみがきちんと分別されていれば、焼却する量が減り、炉を長持ちさせるだけでなく、焼却灰などを埋め立てる最終処分場も長い期間使うことができます。

▲確認してから分別を

市で作成している「家庭ごみの分け方出し方」を確認して正しく出しましょう。市役所クリーン推進課、支所・連絡所で配布しています。市ホームページからも見られます。

生ごみ類を減らすには

◀こんなに水が

生ごみの８割は水分です。生ごみは水切りをしてから捨てましょう。玉ねぎの皮など、もともと乾燥しているものは、そのまま捨てれば水切りの手間が省くことができます。

◀乾燥式生ごみ処理機

生ごみたい肥化容器は、微生物や菌の力で生ごみを分解し、たい肥化します。乾燥式生ごみ処理機は、生ごみを乾燥させて、減らすことができます。

市では、生ごみたい肥化容器（コンポスト・ＥＭ容器）は3,000円、生ごみ処理機は２万円を上限に、購入金額（税抜き）の６割を補助しています。必ず購入前に申請してください。

まだ食べられるのに捨てられる「食品ロス」が最近、社会問題となっています。全国で年間621万ｔ（26年度推計）で世界全体の食糧援助量の約２倍あると言われています。

買い物の前には、冷蔵庫の中を見て、同じものを買わないようにしましょう。市ホームページの「賞味期限チェック表」で食品の期限を定期的に確認し、食べ物を無駄にしないようにすることも大切です。

外食をするときは、食べ切れる分だけ注文しましょう。また、家庭で不要となった賞味期限が切れていない保存食などを必要な人に提供する、フードバンクなども上手に活用しましょう。

再生できる紙・できない紙

●リサイクルできる雑紙

包装紙、チラシ・カタログ、ティッシュの箱、封筒、ハガキ、紙袋、カレンダー、ラップの箱、歯磨き粉の箱、タオルの箱、ポスター、プリント、ノート、教科書など

ビニール窓付きの封筒やティッシュ箱のビニール部分は、はずして可燃ごみへ。残りは資源物として紐で十字に縛って出してください。

●リサイクルできない雑紙

シール、圧着はがき、宅配用伝票などの粘着物を含む紙、紙コップ、紙皿、アイスのカップ、ビールの紙ケースなどの防水加工された紙、食品、線香・石鹸、洗剤の箱、汚れた紙やにおいのある紙、アイロンプリント紙、感熱紙、カーボン紙、写真やインクジェット用はがき、アルミ付き紙パック、クレヨン、墨汁、絵の具が塗られた紙など

▲資源物として出せます

▲可燃ごみとして出してください

広告

広告